

懐かしい下総玩具



松本節太郎さん

㊤㊤ギャラリー・ヌーベルの資料室には500個もの作品が置かれ、見学者がじっくり鑑賞している

下の写真が「下総玩具」の代表的な首人形である。土製の半面で、独特な顔を描き、竹串をつけ麦わらに刺してある。根戸の松本節太郎さんが創出したもので、百歳を迎えた記念に個展も開かれ、資料室が開設した。



色あざやかな張り子や首人形。資料室も開設

百歳を迎えて個展を開く松本さんの「百歳の個展」が開かれた真夏の一日、旭町に移転したギャラリー・ヌーベル本店を訪うと、小さくて懐かしい感じのするカラフルな人形が店内を飾っていた。さらに二階の和室六畳の資料室には所狭しとばかりに陳列された人形五百体が見学者を出迎える。

下総人形は、手びねりの土人形だけではなく、天神、虎、干支の動物などの張り子も多い。東京下谷の染物屋の四男として生まれた松本さんが始めたのは張り子人形だった。

柏に引越して首人形づくり千葉市から来たという土屋綾子さんに資料室でお会いした。土屋さんは、袋物のシンなどの和紙を扱う足立にあった店の娘さんだったそうで、天日干しの張り子が乾いてから、松本さんが張り紙を買いにこられたという。昔の白木屋で七福神やフランス人形などの張子が売られていました、と。そして、戦後柏に引越した松本さんが「水が湧いているし、自然がいっぱいで、柏はいいところですよ」と言っていたそうである。その裏山の粘土が下総首人形になったことになる。

私の分身 作るのが楽しみ

三年前に、人形作りは終わりにするという最後の個展がクレストホテル柏の前にあったギャラリー・ヌーベルで開かれたことがある。再開しての「百歳の個展」になったのだろうか。NHKテレビに出ていた松本さんはお元気そうで、「作るのが楽しみ、有名人ではないから何でも作る。これが私の分身」と語っていた。

松本さんが一代で創出した下総人形の後継者はいない。

末広クラブ
逆井漫歩63

平成15年10月